



さいたま医療 ものづくり都市構想

Saitama Initiative for Medical-Monozukuri

構想と第3期取り組み成果のご紹介
～きらめく技術で医療の未来へ～

さいたま医療ものづくり都市構想

(平成24年1月策定、令和3年3月改定、令和8年3月改定)

研究開発型ものづくり企業の医療・ヘルスケア機器関連分野への新規参入・事業拡大を支援し、本市の新たな成長エンジンとし、臨床現場に技術面から貢献することを目指します。

基本理念

高度な基盤技術と臨床現場が融合する
広域連携医療ものづくり都市の創造

きらめく技術で
医療の未来へ

2012年～
第1期：基盤整備期

2017年～
第2期：展開・発展期

2021年～
第3期：充実期

構想の期間：2012年～2030年(平成24年～令和12年)

改定版構想：2026年～2030年

4つの重点分野

- ①本市の産業特性である高度な光学測定技術や可視化技術を生かした先端・精密診断分野
- ②本市に集積する超精密加工技術、高度部材技術を生かした治療機器・材料分野
- ③少子社会を支える周産期・小児医療分野
- ④超高齢社会や健康寿命延伸の取組動向、各種先端技術の社会実装が進む社会情勢等に対応した、地域住民の日々の生活や健康を支える看護・介護、健康管理分野

3つの基本施策

1 事業機会の創出

- 医療・ヘルスケア機器の開発・事業化に向けた基盤の整備や強化、参入ニーズや開発案件の発掘
- DX推進を支えるAIやICTなどの新たな技術や、社会情勢の変化を捉えたニーズ・シーズ情報の収集・発信、スタートアップ等を含む企業とのビジネスマッチング等による事業機会の更なる創出

2 開発・商品化支援機能の整備

- 臨床現場や市場のニーズを的確に捉えた商品化の可能性が高い開発案件の目利き
- 案件の企画・研究開発・薬事・販路まで切れ目のない総合的な開発・商品化を支援

3 入口から出口までの一気通貫の支援の促進

- 医療ものづくりコーディネータ、医療ものづくり推進アドバイザー及びさいたま医工連携アドバイザーボード等の支援体制の継続運用
- 試作開発ラボにおける支援と効果的な利活用方法の検討



- 本社所在地：埼玉県入間郡三芳町上富 2048-1
- 代表：代表取締役社長 内田 敏一
- 資本金：5,000 万円
- 従業員数：45 名
- TEL：049-274-3030
- 主な事業：複合材成形加工業

株式会社 UCHIDA



開発製品 BAKUSOLE (小児用カーボンインソール)

- 「子どもたちに駆け抜けるよろこびを」をコンセプトに、埼玉県立大学大学院 国分貴徳 准教授と共同開発した、カーボン (CFRP) の弾性で走りをサポートする小児用カーボンインソール。
- カーボンの曲げた力を戻そうとするエネルギーに変換し、その反発力を活かして走りをサポート。
- 足本来の構造・機能に合わせて足裏全体が効果的に曲がるように材料設計・構造設計されており、着地を安定化することで蹴りだしまでの動作のロスを減らし、効率的な走行を実現。
- 足裏とカーボン素材の間には、高機能ウレタンを採用しクッション性を高めているほか、足裏と接地する部分には、抗菌メッシュ素材を採用。

医療ものづくりへの取り組み

事業内容

CFRPの研究開発から設計、製造までワンストップで対応可能なプロフェッショナル集団として、クルマ、バイクなどの自動車分野や航空宇宙分野、二足歩行アシスト器具に代表される医療分野に至るまで、強度を高めると同時に軽量化を図ることが必要とされる様々な分野で事業を展開している。

支援活用事例

- 試作開発ラボでC-FREX (CFRP製歩行器具) の開発を進めるとともに、より市場化に近い商品として、運動能力の向上をサポートする小児用カーボンインソール「BAKUSOLE」の試作を行った。
- 試作開発ラボ入居時にマッチングした三浦医工デザイン株式会社からニーズを得て、カーボン製の短下肢装具を同社と共同開発した。
- 「さいたま医工連携アドバイザーボード」による専門家支援において、開発製品の今後の事業展開などに関するアドバイスを受ける。

活用いただいた支援施策例

- 試作開発ラボを活用した研究開発
- さいたま医工連携アドバイザーボードのネットワークによる課題解決支援
- 医療ものづくりコーディネータによるマッチング支援
- (公財)さいたま市産業創造財団による海外ミッション派遣及び商談のフォローアップ



BAKUSOLE (小児用カーボンインソール) の特徴



短下肢装具



社屋

Voice of management 経営者の声



代表取締役社長
内田 敏一

【さいたま市との接点】

弊社は自動車や航空宇宙などの分野において、数多くの企業と共同開発をしてきました。ハイエンドなものばかりではなく、もっと人の身近に役立つものづくりをできないかと考え始めた頃、開発から上市に至るロードマップの検討が必要なタイミングで、さいたま市の支援を活用させていただきました。

【製品開発において役立った支援と製品展開の現状】

「さいたま医工連携アドバイザーボード」の支援において、専門家からアドバイスを受けたことで、技術面だけでなく、マーケットを意識した事業展開を進めることができました。「C-FREX」の開発で培ったコア技術をもとに「BAKUSOLE」を上市し、自社ブランド「IR9」のサイトにおいてオンライン注文が可能になりました。

【今後力を入れていきたいこと】

私たちは、ものづくりの現場で生まれる課題を新しい技術で解決し、社員が働きやすくスキルアップが図れるよう、持続可能な製造へと進化させていきます。カーボンニュートラルに対する取り組みとして、資源循環を目指した成型型開発やDX推進・ロボットを活用した工程の自動化などに取り組みながら、2030年ビジョンに向けた未来の工場づくりを着実に進めてまいります。



株式会社金子製作所



内視鏡先端部品



内視鏡極小部品



内視鏡光学部品



内視鏡樹脂部品

取扱部品 医療用軟性内視鏡向け切削加工部品

- 医療用軟性内視鏡部品の加工に携わり、部品の安定供給に努めてきた。
- ステンレスやチタンといった金属から樹脂やマシナブルセラミックまで、各種素材の切削加工に対応。
- 内視鏡部品は光学性能を必要とするため、幾何公差や寸法公差の精度要求に応える技術とノウハウを蓄積。
- 人体内に接触する部品が多くあり、部品にバリやカエリが残ることは許されず、磨き上げる部品も扱う。
- ろう付けやレーザー溶接、接着といった組立工程も含めた加工にも対応。

医療ものづくりへの取り組み

事業内容

金属及びセラミックを用いた下記製品群の精密微細加工及び組み立て。

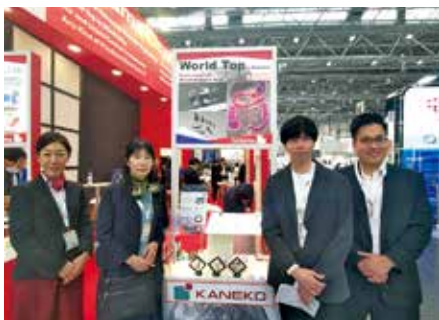
- 医療用内視鏡部品／循環器用機器部品／その他医療機器部品
- 航空機の機体及びエンジン部品
- 光学部品
- 切削加工を伴う試作品

支援活用事例

- ドイツで開催される世界最大の医療機器関連見本市「MEDICA/COMPAMED」をはじめ、各種展示会においてさいたま市ブースで出展し、新規顧客の獲得や協業先の発掘など販路を拡大。
- さいたま市医工連携アドバイザーボードを活用し、開発案件に係るニーズや開発の方向性について有識者から評価をもらった。また、連携可能な医師の紹介を受け、医師のアドバイスを受けながら開発を推進。

活用いただいた支援施策例

- さいたま市医工連携アドバイザーボードによる開発案件に係る有識者とのマッチング支援
- 展示会出展支援（メディカルクリエイションふくしま、MedtecLIVE、COMPAMED、MD&M WEST）
- 医学会等出展支援（日本小児外科学会秋季シンポジウム）
- 医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金による製品開発



展示会（COMPAMED 2025）



精密加工



社屋外観

Voice of management 経営者の声



代表取締役社長
金子 晴房

【さいたま市との接点、企業理念】

1956年設立より、大切にしてきたのはものづくりへの「誇り」です。さいたま市で事業を営み70年を迎えましたが、「さいたま市リーディングエッジ企業」に認証いただくとともに、さいたま市はじめ、(公財)さいたま市産業創造財団から多くのご支援をいただいております。

【製品開発において役立った支援と製品展開の現状】

海外販路の開拓として医療機器関連見本市「MEDICA/COMPAMED」にさいたま市ブースで出展させていただき、現地での知名度もあがって、同見本市で顔を合わせることが定例となった顧客にもめぐり会うことができました。また、受託部品加工が主業である当社にとって自社ブランドでの製品開発は目標でもあり、医療分野での部品加工実績と経験をもとに試作品開発を進めておりますが、こちらも多く支援をいただきながら海外特許を含めた複数の特許取得にもつながりました。

【今後力を入れていきたいこと】

今後も必要性が高まる医療分野で設計者やメーカーが形にしたい、見えなかった病変を見えるようにしたいと、思い描くものを実際の形にして、世の中に送り出していきたいと考えています。



- 本社所在地：さいたま市西区中釘 652
- 代 表：代表取締役 金坂 良一
- 資 本 金：1,000 万円
- 従 業 員 数：90 名
- T E L：048-624-8121
- 主 な 事 業：医療機器開発・製造・販売・アフターサービス

株式会社 Sanko Medical



開発製品 コンスタントNeo (電動式低圧吸引器)

- 動線を意識しピクトグラムによる直感的に操作できる表示パネルをデザインすることで、医療スタッフや患者の負担を軽減する低圧吸引器。
- 小型軽量でありながら連続300分運転可能。
- 排液バッグは大口徑によりアンプルで滅菌水を投入できるため、作業時間の削減につながる。シリンジを使用しないため、消耗品コスト削減につながる。
- 排液バッグを処分するときに必要なキャップが標準で付属しており、処分の簡素化が図られている。
- 排液バッグの貯留槽が変わっても10ml単位を維持、目盛りは5ml刻みとし、黒文字と大きいフォントを採用することで、排液バッグの視認性を確保している。

医療ものづくりへの取り組み

事業内容

医療機器の専門メーカーとして、「命を繋ぐモノづくり」を掲げ、主に吸引器や酸素関連機器、在宅医療機器の開発・製造・販売を行っている。中でも喀痰吸引器「ミニック」シリーズに代表される電動式吸引器は、ACタイプに加え、外出時や非常時に使用できるバッテリータイプを販売しており、日本国内でトップシェアを誇る。

支援活用事例

- 医療ものづくりコーディネーターから製品開発に係るアドバイスを受けて「コンスタントNeo」を開発し、上市につなげる。
- さいたま医工連携アドバイザーボードにおいて、臨床医や看護師、介護施設職員から開発案件に係る意見を聴取し、ニーズ収集や開発の方向性の検討に役立てた。
- 福島県郡山市で開催される「メディカルクリエイションふくしま」をはじめ、各種展示会においてさいたま市ブースで出展し、新製品のPRや新規顧客の獲得などにつなげる。

活用いただいた支援施策例

- さいたま医工連携アドバイザーボードによる開発案件に係る臨床医等からの意見聴取や介護施設訪問
- 医療ものづくりコーディネーターによる情報提供やマッチング
- 展示会出展支援 (HOSPEX Japan、メディカルジャパン東京、メディカルクリエイションふくしま、MD&M WEST)
- 医学会等展示出展支援 (日本小児外科学会秋季シンポジウム、国際小児内視鏡外科学会)
- 医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金による製品開発
- イノベーション技術創出支援補助金 (医療・ヘルスケアに関わる技術分野) による研究開発



医療用壁掛吸引器「DS-1000」



サイレントモード付き吸引器「ミニック」シリーズ



展示会 (メディカルクリエイションふくしま2024)

Voice of management 経営者の声



代表取締役
金坂 良一

【さいたま市との接点、企業理念】

1958年の創業以来、医療現場のニーズを先取りし、安心してお使い頂ける医療機器を多くの患者様、医療従事者の皆様、スピーディーかつタイムリーにお届けしてきました。クライアントから低圧持続吸引器の新規製品の要望があった中、顧客ニーズの情報が欲しいと思っていたタイミングで、さいたま市の支援を活用させていただきました。

【製品開発において役立った支援と製品展開の現状】

医療ものづくりコーディネーターからアドバイスを受けて開発した「コンスタントNeo」は、ユーザー目線で使いやすいという評価を頂き、大学病院への導入につながりました。また、さいたま医工連携アドバイザーボードによる支援や開発費の補助など、新製品開発を進めるうえで活用させてもらっています。

【今後力を入れていきたいこと】

現在、医療機器もデジタルトランスフォーメーション (DX) 化が急ピッチで進められています。国内の医療業界の人材不足が深刻化していく中、当社としても、DX化を通じて作業を簡略化し、医療従事者の負担を軽減するような医療機器の開発を進めて参ります。



- 本社所在地：東京都品川区西五反田8-4-13五反田JPビルディング4F
- 工場所在地：さいたま市岩槻区上野6-12-8 (岩槻工場)
- 代表：代表取締役社長執行役員 森田 健司
- 資本金：3,804,298千円
- 従業員数：2,307人(連結)
- TEL：048-794-2211
- 主な事業：各種工業用ゴム部品等の製造販売



◇さいたま市リーディングエッジ企業 認証企業

藤倉コンポジット株式会社



液体検知センサ

標準センサ シートタイプセンサ

取扱部品

医療用シリコンゴム製品、逆止弁、減圧弁、液体検知センサ

当社の医療事業は、長年培ったゴム材料技術と空気圧制御技術の融合による高品質な製品群が特徴。

- **医療用シリコンゴム**：ISO10993に準拠した高い生体適合性を有し、極薄・複雑形状などの精密成形を実現。多様な医療用品のニーズに柔軟に応える。
- **逆止弁**：微小流量でも確実に作動し液体の逆流を防止。小型・軽量設計で、各種医療機器への組み込みに最適。
- **減圧弁**：独自の薄膜ダイアフラム技術により、酸素濃縮器などで求められる極めて繊細かつ安定した圧力制御を提供。
- **液体検知センサ**：マグネシウム空気電池の原理で水に濡れると自己発電するため、外部電源や電池交換が一切不要な液体検知センサ。医療分野での利用を検討中。



ディスポーザブル製品



制御機器製品

医療ものづくりへの取り組み

事業内容

創業1901年に日本で初めてゴム引布を開発して以来、自動車のエンジンに使用される重要保安部品から、ゴルフのカーボンシャフトまで、社会からの要求を的確にとらえ、多岐にわたる製品をお客様に提供。現在では4つの事業部門が事業の核となり、生産技術を確立し、研究開発を行う。

支援活用事例

- 日本最大級の医療・介護・未病の総合展示会「メディカルジャパン東京」をはじめ、各種展示会においてさいたま市ブースで出展し、新製品・新技術のPRなど販路拡大につなげる。
- さいたま医工連携アドバイザーボードを活用し、開発品について有識者からアドバイスを受けたほか、介護施設へ訪問して意見交換を実施。
- 医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金を活用して開発を進めている製品は、様々なシーンでの利活用が期待される。

活用いただいた支援施策例

- さいたま医工連携アドバイザーボードによる開発案件に係る臨床医からの意見聴取や介護施設訪問
- 展示会出展支援 (HOSPEX Japan、メディカルジャパン東京、MedtecLIVE、COMPAMED、MD&M WEST)
- 医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金による製品開発



クリーンルーム



組立エリア



展示会 (COMPAMED 2021)

Voice of management 経営者の声



執行役員
先進技術戦略室 室長
中村 崇人

【さいたま市との接点】

当社は2021年より、さいたま市リーディングエッジ企業として認定を受けており、これを契機に(公財)さいたま市産業創造財団との連携が始まりました。

【製品開発において役立った支援と製品展開の現状】

海外スタートアップや先進技術企業とのグローバル技術マッチング、展示会出展支援、試作品開発支援など、多面的なご支援をいただいております。これらの枠組みは、当社の技術力向上および事業構築の重要な基盤となっています。

【今後力を入れていきたいこと】

藤倉コンポジットは、「人々の安心を支え、社会の豊かさに貢献する」ことを事業目的とし、「複合化技術で未来を支える」をスローガンに事業を展開しています。基幹事業領域の一つである「いのち」のドメインにおいて、医療分野での価値提供に注力しています。医療機関とのニーズマッチングを通じて現場課題を把握し、技術・製品開発に活かすとともに、今後は医療機器を中心とした企業間連携を強化し、当該業界への貢献を一層進めてまいります。



- 本社所在地：埼玉県北足立郡伊奈町小室 7129 番地
- 代 表：代表取締役社長 中山 真一
- 資 本 金：2億円
- 従 業 員 数：350 名
- T E L：048-723-2621
- 主 な 事 業：歯科用医療機器の製造・販売等

株式会社モリタ東京製作所



開発製品 アドブレップ(歯科用研削器材)

- チェアサイドで使用可能な圧力調整機能付歯科用ブラスター
- 歯科用チェアユニットのエアジョイントに接続することができるため、チェアサイドで接着前処理に不可欠なサンドブラスト処理が可能。
- 過度な圧力で処理を行うと接着界面を荒らし、クラック等により補綴物脱離の原因に繋がるため、適切な圧力でのブラスト処理が必要である。本製品は、圧力調整器が内蔵されており、補綴物の材質に適したブラスト圧に調整が可能。
- CAD/CAM冠、ジルコニア冠、金属冠、インレー等の内面処理及び接着阻害因子を除去し、接着強度を向上。

医療ものづくりへの取り組み

事業内容

製品の開発設計から販売まで一貫して行う医療機器メーカー。1969年の創業以来、歯科用医療機器の製造・販売を中心に事業を展開し、人々の健康を支えている。現在では、医科用・動物用医療機器にも事業を拡げている。

支援活用事例

- 「医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金」を活用して、調圧機能を内蔵した歯科チェアサイドブラスターの開発に取り組み、「アドブレップ(歯科用研削器材)」を上市した。
- 「イノベーション技術創出支援補助金(医療・ヘルスケアに関わる技術分野)」を活用して、色温度調節機能を有する歯科用多灯式LED无影灯の実証実験と製品化に取り組み、「ルナビューTL2」を上市した。

活用いただいた支援施策例

- 医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金による製品開発
- イノベーション技術創出支援補助金(医療・ヘルスケアに関わる技術分野)による研究開発及び実証実験
- さいたま医工連携アドバイザーボードによる業事申請に伴う情報提供支援



アドブレップ(歯科用研削器材)の使用実例



オペレーティングライト一体型カメラ「ルナビューTL2」



診療ユニット「シグノ」シリーズ

Voice of management 経営者の声



代表取締役社長
中山 真一

【さいたま市との接点、企業理念】

「医療機器事業を核として社会の発展と福祉の向上に寄与し将来にわたって成長を遂げる」の経営理念のもと、1969年に創業した当初から歯科医療器械製造を主な事業として取り組んできました。研究の実施にあたり、(公財)さいたま市産業創造財団の補助制度の活用を通して、我々の開発テーマに対して非常に多くのサポートをいただいています。

【製品開発において役立った支援と製品展開の現状】

「医療ものづくり試作品開発・製品化支援事業補助金」を活用して上市した「アドブレップ」は、2022年6月から販売を開始し、順調に販売台数を重ねています。令和7年からはドイツ向けに販売を開始しており、今後も更なる海外展開を進めていこうとしています。

【今後力を入れていきたいこと】

歯科と全身の健康の研究が進み、歯科はオーラルフレイルの予防・早期発見・機能回復・維持管理のすべての段階で重要な役割を担っています。医療ものづくりに携わる弊社の事業は、社会的責任と貢献度が高いと認識しております。当社の技術力と品質力を医療機器や関連製品に応用し、社会課題の解決に寄与していきたいと考えています。

主な支援内容のご案内

1 国内展示会・医学会への共同出展

- 国内最大級の展示会での販路開拓、製品PR、製品評価の機会提供
- 医師、看護師等とのネットワーク構築、ニーズ収集、製品評価の機会提供

2 開発・商品化の支援

- 試作段階から、製品試験や薬機法申請段階まで包括的に補助
- 研究開発及び実証実験の実施に要する経費の補助
- 国等の開発資金獲得をサポート

3 海外展示会への共同出展

- 高付加価値市場である海外の医療系部材展示会での販路開拓、製品PR、製品評価の機会提供
- 事前マッチング等による商談サポート

4 コーディネーターによるマッチング

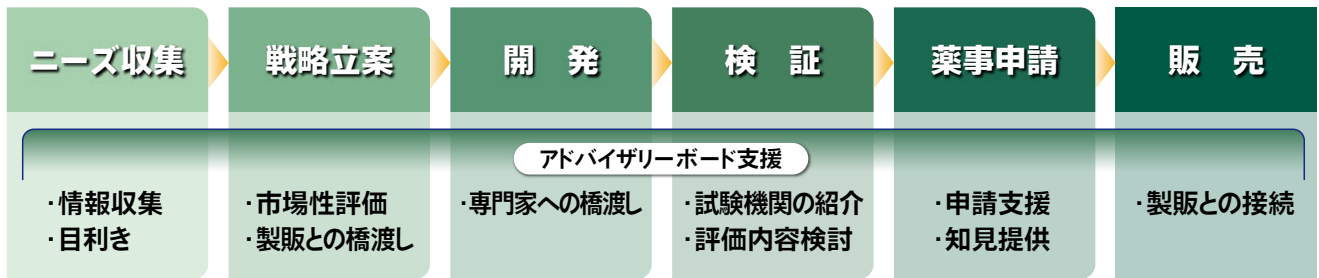
- さいたま企業の技術シーズと、医療・ヘルスケア機器メーカー、臨床現場ニーズとのマッチング
- 医師・看護師等からのニーズ収集や製品評価の機会提供

5 さいたま医工連携アドバイザリーボード

医療・ヘルスケア機器開発における課題に対し、医師をはじめとした専門家のネットワークから最適な人材をマッチングし、市場ニーズや専門的な知見を提供します。開発における障壁を取り除き、商品化を目指す企業への支援を加速させ、市内の医療・ヘルスケア産業に貢献します。

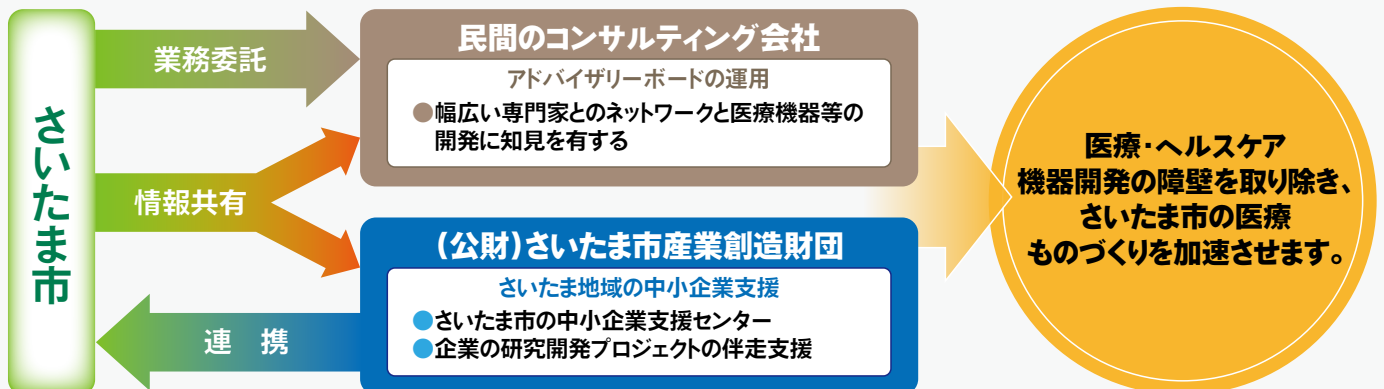
支援スキーム

医療・ヘルスケア機器開発における主な流れ



<支援の一例> ●医師とのマッチング ●看護師等へのニーズインタビュー ●専門家派遣

◆医療・ヘルスケア機器等の開発フェーズに合った支援を無償で提供します(回数には制限があります)。



さいたま市 経済局 商工観光部 企業成長推進課

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

TEL:048-829-1371 FAX:048-829-1944

✉ kigyoseicho-suishin@city.saitama.lg.jp

さいたま市医療ものづくり都市構想



公益財団法人さいたま市産業創造財団

〒338-0002 さいたま市中央区下落合5丁目4番3号さいたま市産業文化センター4階

TEL:048-851-6652 FAX:048-851-6653

✉ iryou@sozo-saitama.or.jp

さいたま市産業創造財団

